

愛宕病院看護師クリニカルラダー

レベル	I	II	III	IV	V
レベルの定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
愛宕病院の目指す看護師の姿	患者・利用者・家族等から得た情報をアセスメントして看護・療養上の課題が抽出できる 愛宕病院において立案された看護計画に基づいて助言を受けながら応用し、看護実践できる 看護を必要とする人々から信頼を得るため、専門的知識・技術だけでなく、誠実さ、品性、清潔さ、謙虚さを高く維持するよう行動する	対象となる人々との間に信頼関係を築き発展させるよう意識的に自ら行動に移すことができる 対象が十分な情報を得る機会や決定する機会を保障することで、人々の知る権利及び自己決定の権利を尊重する行動を自らとることができる 対象の希望を基に看護計画を評価し、再アセスメントにより新たな課題を抽出できる	療養の場において身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から情報収集し、一連の看護過程を自立して展開できる 対象者への医療・看護が阻害されている時や危険にさらされているときは、人々を保護、又は予防するため自ら働きかける	自らの責任と能力を的確に認識し、予後予測に基づき、看護実践及び看護指示の変更と評価ができる チーム医療のキーパーソンとして、多職種間を調整し、対象に対して最善を尽くす	愛宕病院が提供する「看護の質」を管理する立場から教育的役割が発揮できる 不足している社会資源(自助・互助・共助・公助)について、ケアの実践者の立場から提言できる 医療・看護の平等な配分に対し、チーム医療の中心的立場から提言できる
ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえたニーズをとらえる
	【行動目標】	① 助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ② ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	① 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ② 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	① ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個性を踏まえ必要な情報収集ができる ② 得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	① 予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ② 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる
ケアする力	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する
	【行動目標】	① 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる ② 指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる ③ 看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	① ケアの受け手の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる ② ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる ③ ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	① ケアの受け手の個性に合わせて、適切なケアを実践できる ② ケアの受け手の潜在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる ③ ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる	① ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる ② 幅広い視野でケアの受け手と見え、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる
協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる
	【行動目標】	関係者と情報共有ができる	① ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれ積極的に情報交換ができる ② 関係者と密にコミュニケーションをとることができる ③ 看護の展開に必要な関係者を特定できる ④ 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	① ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる ② ケアの受け手とケアについて意見交換できる ③ 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	① ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる ② 多職種間の連携が機能するように調整できる ③ 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる
意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる
	【行動目標】	① 助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	① ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる ② 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	① ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる ② ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる ③ ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	① ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる

定義

看護の核となる実践能力